

和光大学

創立以来、「自由と個性の尊重」をモットーに、学部・学科の垣根を越えた学生一人ひとりの自由意思に基づく学びを実践してきた。入学者選抜においても、受験生の個性や主体性、思考力、判断力などを大切に、多面的に評価する選抜を展開。2023年度入学者選抜でも大きな変更はない方針。

総合型選抜前期(10月実施)は

「授業体験方式」と「事前課題方式」で実施

2023年度総合型選抜前期は、10月下旬の2日間に「授業体験方式」と「事前課題方式」の2方式を実施する。ただし実施学科が異なり、2方式を併願することはできないので注意してほしい。

「授業体験方式」はすべての学科・専修・コースで実施する。試験当日に行う「授業体験とレポート作成」(芸術学科は「授業体験と実技」)、「面接」を評価対象とする。選考基準および内容は「学生募集要項」に詳細が記載されているので、試験内容や選考のポイントを事前に把握し、事前指導や試験対策に役立てられる。

「事前課題方式」は、現代人間学部人間科学科、表現学部総合文化学科、芸術学科の3学科のみで実施する。「事前課題レポート」を出願時に提出し、試験当日の「面接」では提出されたレポートを参考資料とする。事前課題の選考基準や内容、レポート作成の手引きは「学生募集要項」に詳細が記載されている。

総合型選抜前期については、YouTube「和光大学入試チャンネル」でも詳しく紹介している。

また、総合型選抜後期は3月に試験を行い、小論文と面接または実技(芸術学科単願のみ)で合否を判定する。

学校推薦型選抜「公募制」は

小論文と面接で選考

学校推薦型選抜は、従来どおり「指定校」と

「公募制」の2方式を実施する。

「公募制」では全学科とも小論文を課すが、芸術学科のみ小論文の代わりに実技試験の選択が可能だ。「指定校」の詳細については各高校等へ個別に連絡を行う。

「指定校」は面接のみの評価となるため、入試当日にしっかりと受け答えができるよう事前に十分な面接練習をしておきたい。

学校推薦型選抜も、YouTube「和光大学入試チャンネル」で詳細を紹介している。

一般選抜は3回の受験チャンスがあり

すべてが特待生試験

一般選抜前期には「英・国方式」と「2科目選択方式」がある。試験実施日が異なるため2方式とも受験することができる。後期では「英・国方式」のみ実施する。いずれの入試でもすべての学科・専修・コースの学内併願が可能。

前期「英・国方式」は和光学会場のほか仙台、新潟、大宮、長野、千葉、小田原、静岡の全国8会場から受験する場所を選択できる。

「2科目選択方式」は英語、国語、日本史、世界史、政治・経済、数学、情報の7科目から得意な2科目を選択可能。芸術学科のみ、上記選択科目1科目と実技を選択することもできる。ただし、その場合は芸術学科単願となる。

3回いずれかの入試で2科目合計160点以上をとると特待生として初年度学費105万円が免除される。また、総合型選抜前期と学校推薦型選抜合格者も「特待生試験」にチャレンジできるのが特長になっている。

INFORMATION

オープンキャンパス ※予約制

6/11 SAT 7/16 SAT

8/7 SUN 20 SAT

9/11 SUN 10/2 SUN

11/5 SAT 12/10 SAT

YouTube「和光大学入試チャンネル」では、模擬授業「和光10分大学」、大学紹介、学科紹介、入試説明などを公開!



入試委員長
経済経営学部経営学科 教授
小林 猛久

期待する受験生像

和光大学は「異質力で、輝く。」を教育スローガンとして掲げ、学部・学科間を横断した自由な学びによって学生一人ひとりの個性を伸ばす教育を行っています。この学びを支えているのが「講義バイキング」と呼ばれる自由な科目履修制度。他学部・他学科の専門科目を自由に履修できる仕組みです。例えば、芸術学科の学生が心理学や経済学から得た学びを制作に活かすなど、自らの興味があるテーマを多角的な視点で掘り下げることができます。様々なことに興味関心を持ち、それをとことん追求し、学び続ける姿勢を持つ受験生を求めます。